

# 令和7年度 租税教育に関する研究発表

山元町立山元中学校  
主幹教諭 晴佐久 晶

## 1 研究主題

納税者として税への関心を高め、主体的に社会に参画しようとする生徒の育成  
～租税に関する社会科の学習を通して～

## 2 主題設定の理由

社会生活において、税率の変更や減税・増税など税に関わる情報が日々報道されている昨今、税金は私たちにとって欠かせないものである。

小学校6年生の社会科で公民の学習をし、社会と人々の生活が関わっていることを学んでいる。中学校社会科の地理的分野では農業や水産業、工業などを人々の暮らしを学習し、歴史的分野では政治制度や文化、人々の暮らしの変化、そして租税の歴史を学習し、社会とのつながりについて深めていく。

最も身近な税「消費税」という言葉を子どもたちも耳にしている。生徒一人ひとりも納税者である。しかし消費税という言葉を知ってはいても、税金がどんな形で自分たちの生活と関わっているのかは、断片的には知識としてあるが、具体的にどのように集められ、どのように使われているかまで深く考えたことのある生徒はほとんどおらず、税金を払うことに抵抗を感じている生徒もいる。

租税について調べ、考え、話し合う活動を通して、人々の生活との関わりや税金の大切さについて実感し、納税者の一人として租税の意義や役割を身近に感じ、納税の意義を実感することができると考え、本主題を設定した。

## 3 研究の目標

「税」について、歴史やその役割、学校生活や社会生活との関連を調べ、まとめる等の学習活動を通して租税への関心を高め、租税の必要性や重要性を実感するための指導の在り方を探る。

## 4 研究方法

- (1) 事前調査を行い、生徒の税に対する考えを把握する。
- (2) 租税教室（仙台南税務署より講師来校）を実施し、税の種類・役割・公平性などについてグループワークで学習する。
- (3) 租税教育教材「私たちの暮らしと税」を用いて、税について具体的に考える時間を設け租税教室の内容を深める時間を設定し、まとめの活動として、『中学生「税についての作文」』を書く。
- (4) 公民的分野の授業において、税制度について、歴史や目的について理解を深める。

## 5 研究計画

令和7年	6月	事前調査、租税教室（仙台南税務署）
	7月～	実践授業、税の作文
	9月～10月	研究のまとめ

## 6 研究の概要

(1) 生徒の実態 : 事前調査

第3学年 1組・2組 69名 6月5日実施

【調査項目】

- ①税金は必要だと思いますか
- ②税金を払いたいと思いますか
- ③税金は何に使われていると思いますか
- ④税気について知っていることや疑問は何ですか
- ⑤税金についてもっと知りたいですか

以上の5つの項目で調査を実施した。結果は次の通りである。

## 調査結果

- ① 税金は必要だと思いますか  
はい66%    わからない28%    いいえ6%
- ② 税金を払いたと思いますか  
はい10%    できるなら少なく払いたい65%    払いたくない20%    わからない5%
- ③ 税金は何に使われていますか  
公共の場所 救急車 消防 警察 道路とかの工事 国や市町村の何か 教科書 公園  
年金 学校 公務員の給料 など
- ④ 税について知っていることや疑問は何ですか  
・減税は少ないけど、増税は多いのはなぜか。  
・なぜ税金は必要なのか  
・子どもや高齢者に関わる仕事に就いている人たちの給料が仕事量に対して少ないと思う  
・なぜこんなにたくさんの税金を払わないといけないのか  
・日本に住んでいるから義務として税金を払わなければならない  
・税金を払っているのに、国民に還元されていないように感じる  
・寝ている議員さんに税金を使って給料を払って本当にいいのか  
・税金がなかったら、社会が回らなくなり大変なことになる など
- ⑤ 税金についてもっと知りたいですか  
はい 75%    いいえ 25%

## (2) 租税教室                      令和7年6月13日    (仙台南税務署より3名来校)

### ①講話

- ・税の種類
- ・税金の使い道
- ・国民の義務      納税の義務    ➔    税金は国民が出し合う会費

### ②グループワーク

- ・税の公平性について考えてみよう  
「町に橋を建設する」場面の事例で考える

### ③1億円のレプリカを持ってみよう

### (生徒の様子)

グループワークでは、公平性が平等性かと積極的に意見を交わし、話し合いを進める様子が印象的であった。生徒はグループワークの結果をグループで出した意見をもとに整理された内容を発表した。発表の内容から、多くの意見や疑問を生徒たちがもったことがわかった。



(3) 租税教育教材「私たちの暮らしと税」の活用・『中学生「税についての作文」』

○中学校社会科用学習資料（令和7年度版）を活用し、税金の仕組みや財政の仕組みについて学習を深めた。なぜ税金は必要なのか、何に使われているのかを自由に話し合わせ、個人の考えを整理させた。

(生徒の意見)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・税金がなくなったら、大変なことになることがわかった</li> <li>・小中学生の義務教育も税金で成り立っていることを知ることができた</li> <li>・自分たちの生活にどれだけ役だっているものなのかわかった</li> <li>・税にはいろいろな種類があるので、少し覚えたい</li> <li>・警察や消防も税金で賄われていることがわかった</li> <li>・どんどん増税されるのは嫌だ。でも私たちの生活に生かされていると思うと必要なものだと思う</li> <li>・税金を納める意味がわかった</li> <li>・人が生きていだけでたくさんの税が掛かることがわかった</li> <li>・税金がないと充実した暮らしができないなど感じた</li> <li>・安全に生活できているのは、税金のお陰であることを改めて知ることができた</li> <li>・税金を納めることは自分のためでもあることがわかった</li> <li>・税金があつて良かったと思えるようになった。将来自分もしっかり納税したい</li> <li>・税金が必要なのはわかったが、納めた税金が正しく使われているか疑問に思った</li> </ul>	など
--	----

○『中学生「税についての作文」』のコンクールを紹介し、64名の生徒からの応募があった。実体験に基づくものや租税についての学習で考えたこと、家で話題になったことなど様々な視点で書かれた作文が見られ、学習の成果を感じることができた。

(4) 公民的分野の授業における実践

① 単元名 財政と国民の福祉 4時間扱い

② 単元の目標

- ・税の使い道について、項目やカテゴリーなどに整理して、相互関係を整理してまとめる活動を通して、財政及び租税の意義と役割、国民の納税の義務について理解する。
- ・公正・持続可能性などに着目して、政府の役割や財政の在り方について考察・構想し、表現する。
- ・社会の一員（税の負担者）として、税の使い道など国・地方公共団体の経済活動（財政）に関心をもち、シミュレーションを通して、それぞれの立場に配慮し、公平な社会の在り方について、多面的・多角的に考えようとする。

③ 単元の評価規準

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	財政及び租税の意義、国民の納税の義務について理解している。	対立と合意、効率と公正、分業と交換、希少性などに着目して、財政及び租税の役割について多面的・多角的に考察し、表現している。	国民の生活と政府の役割について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。

④ 単元の指導計画と評価 (5時間扱い)

学習内容	学習目標		評価規準
1 私たちの生活 と財政 (1時間) <b>本時</b>	知 技	私たちが納める税金の種類や仕組みについて理解する	私たちが日常生活の中で納めている税金について理解している
	思 判 表	公正の観点から税金の負担について考察する	憲法で国民に納税の義務がある理由について税金の役割に注目し考察し表現している
2 財政の役割と課題 (1時間)	知 技	身近な社会資本や公共サービスについて調べ政府が果たしている経済的な役割と課題を理解する	公共サービスはどこがどのように提供しているか本文から読み取る学習を通して理解している
	思 判 表	政府の財政政策と景気との関係について、公共投資や民間企業と関連付けながら考察し、表現する。	政府の財政政策と景気との関係について公共投資や民間企業と関連付けながら考察し、表現している。
	思 判 表	我が国の社会保障制度の仕組みについて理解する	私たちが日常生活の中で利用している社会保障制度について理解している。
3 社会保障の 仕組みと課題 (1時間)	知 技	我が国の社会保障制度の仕組みについて理解する。	私たちが日常生活の中で利用している社会保障制度について理解している。
	思 判 表	社会保障の基本的な考え方と日本の社会保障制度のあらましを理解したうえで、これからの社会保障制度について、持続可能性の観点から考察し、表現する。	社会保障の基本的な考え方と日本の社会保障制度のあらましを理解したうえで、これからの社会保障制度について、持続可能性の観点から考察し、表現している。
4 少子高齢化と財政 (2時間)	知 技	少子高齢化の財政への影響について理解する。	現役世代が納める保険料の負担が大きくなっている理由について理解している。
	思 判 表	少子高齢社会における社会保障制度の充実と経済成長の両立が難しい理由を、増税の影響に着目して考察し、表現する。	社会保障制度の充実と経済成長との両立が難しい理由を増税の影響に着目して考察している。
	知 技	社会資本の整備、少子高齢社会における社会保障の充実・安定化、消費者の保護について、それらの意義を理解する。	社会資本の整備、少子高齢社会における社会保障の充実・安定化、消費者の保護について、それらの意義を理解している。
	思 判 表	財政及び租税の意義、国民の納税の義務について理解する。	財政及び租税の意義、国民の納税の義務について理解している。
	思 判 表	対立と合意、効率と公正、分業と交換、希少性などに着目し、市場の働きに委ねることが難しい諸問題に関して、国や地方公共団体が果たす役割について多面的・多角的に考察し、表現する。	対立と合意、効率と公正、分業と交換、希少性などに着目し、市場の働きに委ねることが難しい諸問題に関して、国や地方公共団体が果たす役割について多面的多角的に考察し、表現している。
	態 度	国民の生活と政府の役割について、現代社会に見られる課題の解決に向けて自らの学習をふり返りながら粘り強く取り組み、主体的に社会に関わろうとする。	国民の生活と政府の役割について、現代社会に見られる課題の解決に向けて自らの学習をふり返りながら粘り強く取り組み、主体的に社会に関わろうとしている。

## ○本時の目標

- ・税の種類や基本的な仕組みと、主権者である私たちが税に関心を持つことの大切さを説明できる。
- ・税の納め方や公平な税の考え方に関心を持ち、自分の考えを表現できる。

## ○本時の展開（1／5時間）

	主な発問／学習活動・学習内容、生徒の反応（※）	指導上の留意点
導入	<p>1 【租税教室の復習から】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・税は、公共サービスの費用を賄うものであり、みんなが互いに支え合い、共にによりよい社会を作っていくための費用は、みんなが広く公平に分かち合うことが必要である。このため、税は「社会の会費のようなもの」である。</li> </ul> <p>2 本時の学習課題の把握</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>税の種類や基本的な仕組みについて知り、税の集め方について考えよう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「公平」、「社会の会費のようなもの」などのキーワードの認識の共有化を図る。</li> <li>・単元を貫く問い（<b>持続可能な税の在り方について、私たちは、どのように考えたらよいだろうか。</b>）のために、本時は税の種類や基本的な仕組みについて学習することを伝える。</li> <li>・身近な生活と税が密接に関わっていることを示す。</li> <li>・生徒も消費税を負担している税の負担者であることを示す。</li> </ul>
展開	<p>3 税の種類や基本的な仕組みについて知ろう。</p> <p>(1) 会社員の一日の生活の例から、どのような税が関わっているのか、どのような税の種類があるのかを知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【家】住民税(住むこと)、固定資産税→【会社】法人税、所得税(給料)→【外出】自動車税、ガソリン税(揮発油税)、消費税(買い物)、相続税(葬儀場)→【帰宅】酒税、たばこ税等</p> </div> <p>(2) これらの税が、どこに納められているのかを知ろう。</p> <p>(3) これらの税が、どのように納められているのかを知ろう。</p> <p>【所得税】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 会社員の所得税は、会社が毎月給料から差し引き、年末に1年間の税額の過不足を精算する（年末調整）。</li> <li>→ 事業者などの所得税は、1年間の所得や税額を自分で計算し、確定申告の時期に申告・納税する。</li> </ul> <p>【消費税】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 生徒は、物を買う都度消費税を支払っているが、税務署への申告・納税は、お店が確定申告の時期などに行っている。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・所得税など国税は、自己の所得等を最も正確に把握している国民が、自ら税額を適正に計算し、申告と納付を行う申告納税制度（自発的に納税義務を履行する民主的な税制度）であることを理解する。</li> </ul> <p>4 「公平な税」の考え方について知ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・税の公平とは、税を負担能力に応じて分かち合うという意味であり、公平には2つの大きな考え方があることを理解する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 等しい負担能力のある人（経済力が同じ人）は等しい負担をするという考え方（消費税など）</li> <li>→ 負担能力の大きい人はより大きな負担をするという考え方 <ul style="list-style-type: none"> <li>所得税や相続税などは、所得など課税対象額が多くなるほど税率が高くなる仕組み（累進税率）。</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国税と地方税があることを知らせる。</li> <li>・会社員の場合も、副業等の収入については確定申告が必要であることに気づかせ自分が不利益を被らないためにも、税についての知識を持ち、正しく納税することが必要であることを示す。</li> <li>・消費税のように負担者と納税者が異なる税は間接税、所得税のように負担者と納税者が一致する税は直接税に区分されることを理解する。</li> <li>・「公共サービスの費用は、広く公平に分かち合う必要がある」と学習したことを再確認する。</li> <li>・公共サービスの財源を賄えるよう、また、負担が公平になるよう多くの税の種類が組み合わせられていることを示す。</li> </ul>
まとめ	<p>5 本時のまとめとして、「税の種類や基本的な仕組み、税の集め方について考えたこと」を自分の言葉で表現する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の言葉でまとめるように伝える。</li> </ul>

## ○評価規準

### 【知識・理解】

税の種類や基本的な仕組みと、主権者である私たちが税に関心をもつことの大切さを理解している。

### 【思考・判断・表現】

税の納め方や公平な税の考え方に関心を持ち、自分の考えを表現している。

## 7 成果と課題

### (1) 成果

- ・租税教育の実践のための取り組みにならないようにカリキュラムを組んで取り組むことができ、結果、公民的分野の導入部分に租税教室を位置付けることができた。
- ・通常 of 社会科の授業にカリキュラムとして取り組み、毎年租税教育や主権者教育を実施できる指導計画に近づけることができた。
- ・様々な学習の場面で税金とのかかわりを考える生徒が増えた。また税金とのかかわりを考える場面が増えたことにより、税金が自分たちにとって大切なものであることに気づくようになった。
- ・税に関するマイナスのイメージを持っていた生徒も税の大切さや必要性を理解し、「しっかり納めなければならないこと」「18歳になったら選挙に行く」という意識も高まり、税に対する意識も改善されていく様子が見られた。

### (2) 課題

- ・租税教育に特化した取り組みの学習にならないように配慮した指導計画の作成の工夫をする。
- ・3学年の公民的分野の学習としての租税教育を位置づけるだけでなく、1、2年生の歴史的分野・地理的分野との関連も考慮し、学習指導要領に沿って指導計画を検討していく。
- ・小学校で学習したことを深められる内容にするために、小学校の学習指導要領と社会科の年間指導計画も活用する。